

岡山大学 MONTHLY DIGEST

VOL. 33
2019.1

TOPICS

1

米務省「重要言語奨学金 (CLS) プログラム」派遣先に決定!! 国立大初、全米トップクラスの学生に授業



関係強化に向けて米務省・教育文化局 (ECA) で本学の紹介をする榎野学長

全米トップクラスの大学生・院生が日本語と日本文化を集中的に学ぶ、米務省の「重要言語奨学金 (CLS) プログラム」の受け入れ先に、岡山大学が国立大学として初めて選ばれました。2019年6月14日～8月10日までの8週間にわたって実施する予定です。日本語を中心とした授業を開講するほか、地域の自然や歴史、文化交流体験を提供します。

来日するのは、国務省により全米約400人の応募者から選抜された26人。本学は週20時間のカリキュラムを用意し、中級・上級レベルの日本語授業を行うほか、地域との交流を踏まえた学外活動を通じ、多角的な実践学習を実施します。また、本学の学生が「日本語パートナー」となって学内外の活動をサポートします。

国務省は今後3年間にわたり本学を派遣先とする方針です。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id8283.html



TOPICS

2

学生と地域の方々が一緒にアイデアを創出する 岡山大学「津山アイデアソン」を、津山市内で開催

本学は、学生と地域の方々が一緒に新しいアイデアを創出するイベント、岡山大学「津山アイデアソン」を1月20日、津山市内で開催しました。

本イベントは旧美作国3市5町2村および津山商工会議所との包括連携協定に基づく「岡大＝美作国プロジェクト」の一環として実施。学生が地域の現状や強み、課題について学びながら、津山市城東・城西地域の活性化に向けて地域の方々と一緒に議論を深めました。

本学からはグローバル・ディスカバリー・プログラムと大学院ヘルスシステム統合科学研究科の教員4人と、留学生を含む学生28人が参加。津山市内の高校生や教員、地域の方々約50人も参加し、活気のあるイベントとなりました。

学生たちは津山洋学資料館などを見学したほか、作州民芸館で高校生や城西まちづくり協議会の佐々木裕子事務局長らから地域の歴史や現状、活動について説明を受けた後、地域活性化に関するグループワークを行いました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id8253.html



最近の大学の取り組み

岡山県生活協同組合連合会・役員研修交流会で 本学のSDGsの取り組みについて講演



1月11日に岡山市内で開かれた岡山県生協連・会員生協役員研修交流会で、青尾謙副理事・大学院ヘルスシステム統合科学研究科講師が、本学のSDGs (持続可能な開発目標) の取り組みについて講演を行いました。

本学SDGs推進企画会議委員である青尾副理事が、「岡山からSDGsに貢献する一響きあうパートナーシップに向けて」と題して講演。SDGsの理念や歴史、本学のSDGs推進の取り組み実績に加え、岡山県内での実例や生協の活動が持つ意味について説明しました。参加した約50人の関係者からは、SDGs推進のための具体的な手法などについて質問がありました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id8251.html



TOPICS

3

「第91回日本学生氷上競技選手権大会セカンドディビジョン」でアイスホッケー部(男子)が3位入賞！

昨年12月26～28日に開催された「第91回日本学生氷上競技選手権大会(インカレ)」で、本学アイスホッケー部(男子)がセカンドディビジョンにて第3位入賞を果たしました。

ファーストディビジョン、セカンドディビジョンに分かれる本大会には、地区予選を勝ち抜いた全国の大学が出場。本学アイスホッケー部(男子)は、トーナメント方式で行われた中四国地区予選(7校出場)を準優勝で突破し、セカンドディビジョンに駒を進めました。8校で争われたトーナメントでは、見事初戦を突破。準決勝では惜しくも強豪に敗れましたが、3位決定戦では1点を争う苦しい戦いを制し、3位入賞に輝きました！キャプテンの三木紹君さん(医学部4年)は、「全国初勝利を目指して練習に取り組み、結果として3位に入賞し、非常に良い経験をすることができたと思います。来年度はファーストディビジョンでの勝利を目指し練習に励みます」と話しました。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id8280.html



「岡山県北地域教育プログラム スタートアップ・シンポジウム」を開催

TOPICS

4



本学教育学部は1月5日、「岡山県北地域教育プログラム スタートアップ・シンポジウム」を真庭市で開催しました(岡山県教育委員会、津山、真庭、新見、高梁市、勝央町、新庄村の各教育委員会共催)。

本プログラムは、学校・大学・地域で教員養成をともに創っていくことを目的としたものです。当日は、本プログラム一期生をはじめ、高校生、教育委員会・教育事務所、小・中・高等学校関係者、他大学教職員など県内外から158人が出席しました。

本学大学院教育学研究科長の三村由香里教授が開会のあいさつをした後、本学教員が本プログラムの理念や概要を説明。「プログラム一期生の学びとその意味」と題し、学生が一年間の活動を報告するとともに、自身の学びを振り返りました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id8249.html

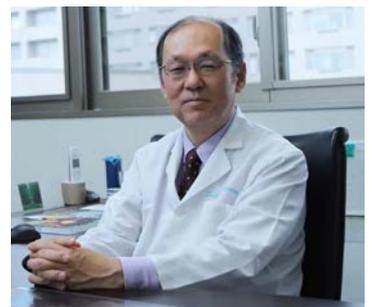
PRESS
RELEASE 1

食道がんに対する放射線治療を併用した腫瘍融解ウイルス「テロメライシン」の臨床研究の最終報告

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科消化器外科学分野の藤原俊義教授、白川靖博准教授らの研究グループは、食道がんに対する腫瘍選択的融解ウイルス製剤「テロメライシン」を用いた放射線併用ウイルス療法の臨床研究を推進してきましたが、13例の食道がん患者に治療を実施して臨床研究を終了しました。その安全性と有効性に関する研究成果を、米国サンフランシスコで開催された「米国臨床腫瘍学会消化器癌シンポジウム(ASCO-GI)」(期間:2019年1月17日～19日)で発表しました。

本臨床研究では、基礎研究で認められたテロメライシンが放射線治療の効果を強める現象が確認され、大きな副作用もなく13例中8例で食道の腫瘍が消失しました。現在、岡山大学発ベンチャー オンコリスバイオファーマ(株)の企業治験も進行中です。

テロメライシンは、手術や抗がん剤治療が難しい高齢の食道がん患者などで、低侵襲で安全な治療法となることが期待されます。



藤原教授

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id593.html

